「やってみたい・もっと知りたい」

園長　鈴木　勝子

日中はまだまだ暑い日もありますが、いつの間にか夜には虫の声が聞こえるようになりました。季節は夏から秋へと近づいてきています。プール遊びも終わり、どの子もちょっぴり日焼けして、たくましくなったように感じます。また、小学校の２学期の始まりと共に、賑やかな８月が終わりました。

さて、今年も７月後半から改修し立てのホールで夏期学童保育が始まりました。１～６年生までの三十名近くの小学生の利用がありました。朝の園庭遊びでは、在園児にセミを捕まえてあげたりプールの着替えを手伝ってあげたり、午睡の寝かしつけをしたりと、こども園の学童、ならではの経験ができました。また、毎年、夏休みの思い出に『おたのしみ』を企画しています。今年の『おたのしみ』は、イオンへのお買い物と〝浜松科学館とアクトの展望回廊〟へのお出かけでした。この『おたのしみ』のために、夏休みの初めに「家のお手伝いを進んでする！」ことをしっかりと約束をしました。イオンへのお買い物１回目は、自分で好きなお弁当を一つ選んで、一人ずつレジを通りお金を払う経験をしました。２回目は、３～４人のグループになり、自分の好きなお弁当とアイスを購入しました。税込み価格の表示と+税の表示があり、自分たちで計算して戸惑いながらレジを通り、ドキドキだったようです。職員は、１回目はレジの側で見守りましたが２回目はグループごとに清算後、２階のキッズコーナーで待ち合わせとしました。職員の心配をよそに、子どもたちは慣れた場所で全く迷うこともなく、全員無事に支払いを済ませて、集合場所に集まることが出来ました。フードコートでアイスを食べ、意気揚々と「ただいまー」と園に戻ってきました。

もう一つの『おたのしみ』は公共の交通機関を使って〝浜松科学館とアクトの展望回廊〟に出かけました。事前にバスと電車の運賃を調べ、いくら持って行くのか、朝の混雑時のバスや電車の中ではどうしたらよいか、等々の事前学習を済ませ出発しました。高学年のリーダーを中心にグループごとに行動し、科学館内を廻ってきました。新しくなった科学館は子どもたちにとってはワクワクドキドキの連続だったようです。体験コーナーでは、１・２年生は年上の友達がやることに興味津々。何でも「やりた～い！」と挑戦していました。自分よりも少し大きい友達の真似をする、ちょっと頑張ればできるかもしれない、子どもはこのワクワクドキドキが大好きです。ワクワク体験の積み重ねで、できることが増え、知識も増えていくのだと思います。

以前、保育講演会で「今は違う学年の子ども達が群れて遊ぶ光景はほとんど見られなくなった。異年齢で関わることでしか経験できない、学べないことが沢山ある。」という内容のお話しを聞きました。私事になりますが、幼いころから運動音痴の私は縄跳びや逆上がり等、近所の年上の友達の真似をして挑戦してみるのですが、なかなかできずコツを教えてもらい何日も特訓を受けて、やっと出来るようになりました。そして今度は得意げに年下の子にやって見せ、何事もなかったかの様に教えたことを思い出しました。人から頼りにされる経験や人と関わる中での「やってみたい・もっと知りたい」が子どもの豊かな学びや育ちに繋がるのです。夏休みの子どもたちから、そんなことを感じました。